

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	太良町立多良小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の基盤として、“落ち着いた学校づくり”に全職員、全保護者で取り組む必要が出てきた。この機会に、児童自身の主体者意識を高め、生活、学習の両面から教育活動の改善・充実を図っていく。 ・日常の授業づくりやその他の日常的教育活動について、教職員の役割を明確にし、組織的な取組とする。（校内研修を中核として） ・学習、生活の両面において、めあてを意識し、根気強く取り組む活動を充実させる。
2 学校教育目標	「大人も子どもも、目指すは、“とことん学び続け、とことん学び合う人”～生涯学びの基礎づくり～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の活動時間を確保した上で、自分の“成長”“伸び”“変容”を意識する教育活動を行っていく。 ・言語力向上に向けた取組を、国語科を中心にして、全教科・全領域、学校行事等で行う。（子ども達の話す、聞く、書く、話す場面を増やす。）

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○授業改善の推進 ○言語活動の時間確保と充実	○児童の活動保障とめあてを意識した主体的学習ができてきたと回答した職員の割合の増加 ○授業中の言語活動の時間が増えたと回答した職員の割合の増加 ○文章を読むこと、文章を書くことが上手になったと回答した児童の割合の増加	・読む活動、話し合う活動、書く活動の組み入れ方、個別支援・個別指導の仕方を、職員間で情報共有していく。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を踏まえる。 ・NIE教育の推進	B	・めあて一活動一ふりかえりの学習過程については、職員の意識的取組が定着している。学習者の主体性を引き出すふりかえりの在り方、めあての設定の仕方については、今後の重要ポイントとなる。 ・読む、話す・話し合う、書くの活動については、個々の成長、伸び、変容の捉えと児童への返し方が課題となっている。					井上、松本、草野
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合の増加 ○相手の立場や思いを考えた言動ができるようになったと回答した児童の割合の増加	・人権集会、平和集会や道徳に関するアンケートの実施 ・相手の立場や思いを考える機会としての生活指導	B	・特活部を中心に、人権集会や人権放送等、取組を進めてきた。意識の高まりは観られる。日常の学校生活における態度・行動として表現され、定着していくことが次の課題となる。					山崎、田中
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員の割合の増加	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	A	・いじめ防止対策基本方針に沿って、2回のアンケート調査と随時の対応を行ってきた。相手意識を高める上での取組となっている。					教頭、西山、中島恵
	●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合の増加 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童の割合の増加	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践	B	・教育活動全体を通して、児童の主体性を引き出すようとする機運は高まっている。具体的な方策の共有や継続する組織的な取組になることがこれから求められることである。 ・児童自身について、めあて達成のつかさねによって、めあて一活動一ふりかえりの習慣化が必要となっている。					
●健康・体づくり	○児童自身が、自分のよさや可能性を認識する。	○自分のよさを具体的に言える児童の割合の増加	・職員複数の目で児童を観察し、児童の良さを多面的、多角的にみつけて、本人に返していく。	B	・自分のよさの自覚と、さらにそのよさを伸ばす取組を継続できる態度を身に付けさせる。					全職員
	②「望ましい生活習慣の形成」 ⑤「健康・安全を考えて行動できる能力の育成」	②早寝・早起き、朝ごはん（喫食）ができていると回答した児童の割合の増加 ⑤「健康・安全は何より大切だ」と考え、「学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童の割合の増加	・早寝・早起きの習慣化、朝食の喫食率アップ ・健康・安全を意識した生活習慣の定着（歩いて登校、校外・校内の安全ルール・マナーの遵守、健康的な生活への主体的な改善） ・給食時間、好き嫌いをなく食べようとする児童の増加	B	・朝、自分で起きることができていない状況が顕著に出ている。家庭との連携によって、この点の改善を図っていく。 ・朝食の欠食児童については、個別の働きかけが必要である。担任、級外、管理職の役割分担を図っていく。					永尾、秀、福田、中島恵
	○運動・スポーツへの関心拡大と積極的な関わり促進	○運動・スポーツへの関心が高まり、運動・スポーツをすることが楽しいと回答した児童の割合の増加	・国スポ・全障スポを通して、スポーツの良さを知る機会とする。また、様々なスポーツと出会う機会とする。 ・体育科の授業を中心とした運動・スポーツへの積極的な関わり促進	A	・国スポ・全障スポと関連する教育活動を展開することができた。 ・体育科を中心に、その運動の特性に合った活動が保障されてきた。県のスポーツチャレンジの参加も増えてきた。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守した教員の割合の増加	・定時退勤日の設定 ・協働体制づくりと業務見直し・改善	B	・時間外勤務の削減について、意識は高まり、時間外勤務時間も減っている。さらに協働体制を強化し、個人としての仕事の背負い込みをなくすようにしていく。					校長、教頭
●特別支援教育の充実	○自立に向けた特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員の割合の増加	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	A	・個別の指導・支援の必要なケースについて、情報共有を積極的に行っている。					里見、草野

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	

○連携強化	○児童、学校、保護者、地域、行政等、五者間連携の活動促進	○地域学校協働活動に参画した地域住民、保護者等の増加	・学校行事、校外活動、日常的教育活動へのボランティア参加（保護者、地域の方） ・行事参加の依頼、呼びかけ、宣伝 ・“ひっきゃで子育て”研修、会合、茶話会 ・気軽に学校に足を運べるような働きか	A	・地域の協力を得て進める活動・行事について、地域連携コーディネーターを中心に計画的に進めている。保護者の理解、協力を得て滞りない教育活動の実施が可能となった。限られた時間を有効に活用しながら、さらに連携強化を図っていく。					教頭、井上、各担任、川島
-------	------------------------------	----------------------------	--	---	--	--	--	--	--	--------------

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ※割合の増加については、年度はじめの調査と比較とする。

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--